ヒダサンショウウオ

Hynobius kimurae Dunn
有尾目・サンショウウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧　旧：要注目　【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の低山から亜高山まで広く分布するが、砂防堰堤建設や林道建設等による生息条件や産卵環境が悪化し減少傾向である。環境変化に弱い。

種の特徴

全長 100 ～ 180 ㎜、背面は紫褐色で黄色の斑点がある。山地森林の渓流付近に生息し、2 ～ 4 月に源流部の岩石の下に虹色光沢した強靭なバナナ状の卵嚢を産み付ける。幼生は 9 月までに変態するが越冬する個体もいる。

分　布

関東から中国地方の標高 35 ～ 1800m に分布する。県内では、標高 35m の低山から亜高山まで広く分布するが、嶺南より嶺北地方に多い。日本固有種。

生息を脅かす要因

砂防堰堤建設、植林管理の林道建設、森林伐採、森林の荒廃、低山での極端化する暴風雨等による生息地破壊、それに伴う水質汚濁が生存に悪影響している。渓流の水環境と周辺の森林の陸環境を一括した保全が不可欠である。

参考文献　千石ら（1996）、福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、京都府（2002）、石川県野生動物保護対策調査会（2009）、環境省編（2014）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

クロサンショウウオ

Hynobius nigresces Stejnernneger
有尾目・サンショウウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧　旧：要注目　【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県が日本の分布域の南限で、遺伝的に貴重である。分布域が限られ、産地の湖沼、湿地、林床等の生息条件が悪化している等存続基盤が脆弱である。環境変化に弱い。

種の特徴

全長 120 ～ 190 ㎜、背面は暗褐色か緑暗褐色で褐色の斑点をもつことがある。尾と前後指が長い。3 月頃から池や湿原の止水域で繁殖する。卵嚢は一般に白色の紡錘状であるが、県内では標高が高くなると透明なものが多くなる。

分　布

東北から中部地方の海岸～標高 2500m 付近まで分布。県内では、標高 400m 以上の山地に分布し、日本の本種の南限で、生物地理学的に 貴重な位置にある。日本固有種。

生息を脅かす要因

生息地が山岳地帯であるので、開発等の影響は少ないものの、低地から高地までの林道建設、森林の荒廃等により生息条件が悪化している。特に、池田町の林道横の水溜りは人為的影響を受けやすく遷移進行がみられる。

参考文献　千石ら（1996）、岐阜県（2001）、福井県高等学校生物研究会（2001）、福井県編（2002）、環境省編（2014）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

ナガレヒキガエル

Bufo torrenticola Matsui
無尾目・ヒキガエル科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧　旧：県域準絶滅危惧　【環境省カテゴリー】―

選定理由

分布域が奥越山岳地帯に限られ、ナガレタゴガエル同様、森林伐採・砂防堰堤建設・山岳林道開設等により存続基盤が脆弱である。

種の特徴

体長 100 ㎜前後、背面は青味を帯びた灰褐色で赤紫斑の個体が多い。アズマヒキガエルに似るが、鼓膜が小さく不明瞭で四肢が長い。山地の渓流と林床に生息し、繁殖は 4 月上旬、渓流の淵で紐状の卵塊を岩石や倒木に産み付ける。

分　布

本州の中部地方西部と近畿地方の山岳地帯に分布する。県内では、嶺北や嶺南の標高 290m 以上の山地に生息している。日本固有種。

生息を脅かす要因

砂防堰堤や林道の建設、渓畔工事、森林伐採による渓流とその周辺の林床の悪化や水質汚濁が生存に悪影響を及ぼしている。繁殖地の水環境と周辺の森林の陸環境を配慮し、一括して保全することが重要である。

参考文献　滋賀県（2011）、水産庁（1996）、前田・松井（1999）、福井県編（2002）、富山県（2012）、滋賀県（2011）、千石ら（1996）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○		○	○		○				○	○	